

HC111 これだけは知っておきたい! vSAN 導入における設計のポイント

ヴイエムウェア株式会社 ソリューションビジネス本部 クラウド技術部 シニア HCI スペシャリスト 山道 幹大



©2019 VMware, Inc.



免責事項

- このセッションには、現在開発中の製品/サービスの機能が含まれている場合があります。
- 新しいテクノロジーに関するこのセッションおよび概要は、VMware が市販の製品/サービスにこれらの機能を搭載することを約束するものではありません。
- 機能は変更される場合があるため、いかなる種類の契約書、受注書、 または販売契約書に記述してはなりません。
- 技術的な問題および市場の需要により、最終的に出荷される製品/サービスでは 機能が変わる場合があります。
- ここで検討されているまたは提示されている新しいテクノロジーまたは機能の価格および パッケージは、決定されたものではありません。

Agenda

VMware vSAN アーキテクチャー概要 vSAN設計 4つのポイント

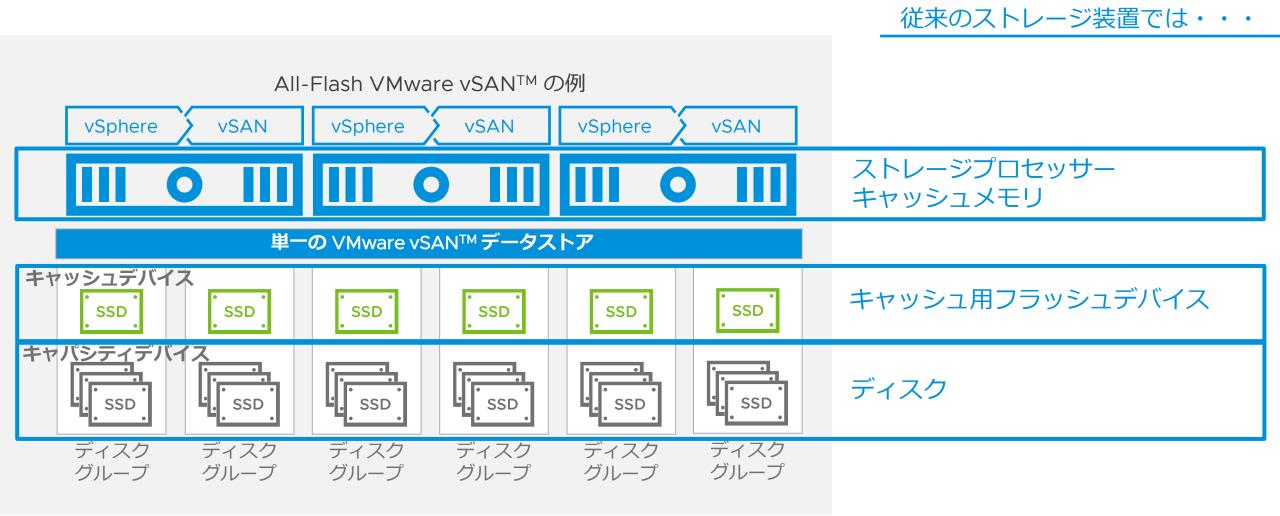
- 適切なサイジング
- ・より高い可用性
- 想定通りのパフォーマンス
- 実現すべき運用効率化

まとめ



VMware vSAN アーキテクチャー概要

vSAN = オブジェクトベースの分散ストレージ



これだけは知っておきたい!失敗しない vSAN 設計のポイント

着目すべき 4 つのポイント



適切な サイジング



より高い可用性



想定通りの パフォーマンス



実現すべき運用効率化



これだけは知っておきたい!失敗しない vSAN 設計のポイント



適切な サイジング

- ✓ 移行対象のアセスメント
- ✓ vSAN Ready Node Sizer のコツ
- ✓ 最新のサイジングルール



移行対象のアセスメント

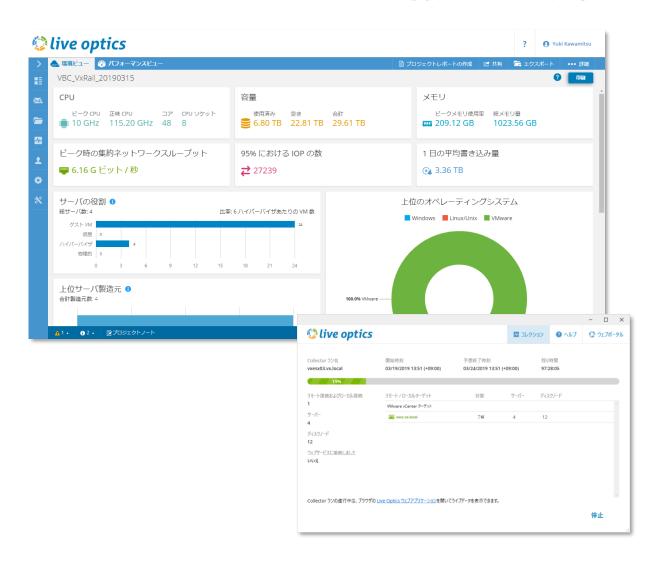
手間をかけずに必要なリソースを正確に把握する



Live Optics とは?

VMware HCI アセスメントで採用された 無償のアセスメントツール





Live Optics アセスメントは VMware が 無償 で提供するアセスメントサービス

VMware は DellEMC のパートナーとして、 Live Optics を 2018 年から公式のアセスメントツー ル(VMware HCI アセスメント)として採用

VMware vSphere®、
Microsoft Hyper-v などの仮想環境、
Windows・Linux などの単体サーバ、
さらにファイルサーバなどの利用状況を収集し、
Web ポータル上で利用状況・課題を可視化する

PowerPoint,PDF,Excel 形式のレポートを出力可能



Live Optics はエージェントレス & インストール不要



コレクタツールはインストール不要の実行ファイル形式で、Windows / Linux で動作

※Windows 版のコレクタは .Net4.5 以上が要件

コレクタ端末は **物理 PC 端末・仮想マシンどちらであっても、**Windows7 以降であればサポートインストール不要な**コレクタツールを起動して、最長 7 日間までのデータ収集を実施**

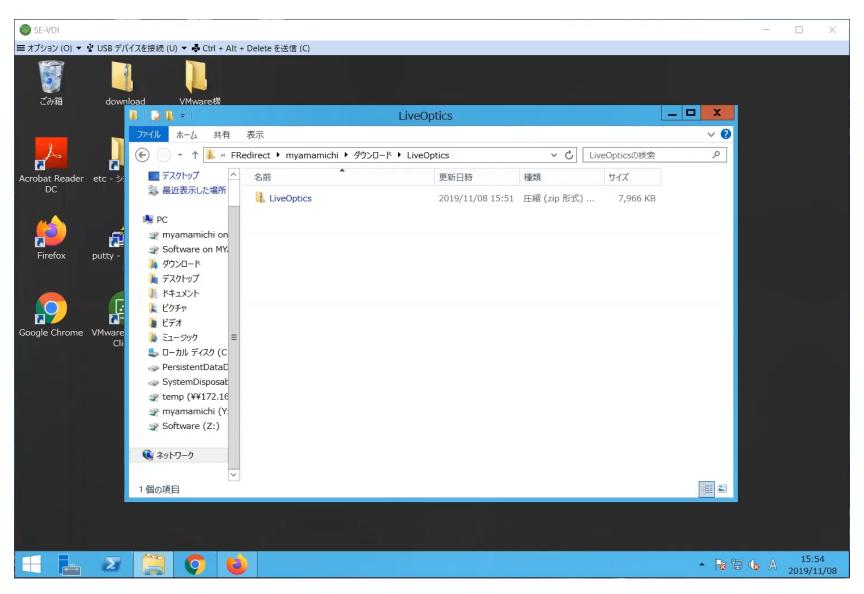
アセスメント対象(データ収集対象)にもエージェントのインストールは不要 vSphere API、Windows WMI / WBEM もしくは Linux SSH でサーバアセスメントを実施可能 ※ Windows や Linux のローカルファイアウォールは許可する必要有り





Live Optics コレクタ デモ







Live Optics レポートの活用ポイント -環境タブー

より正確なサイジングのために活用すべき数値





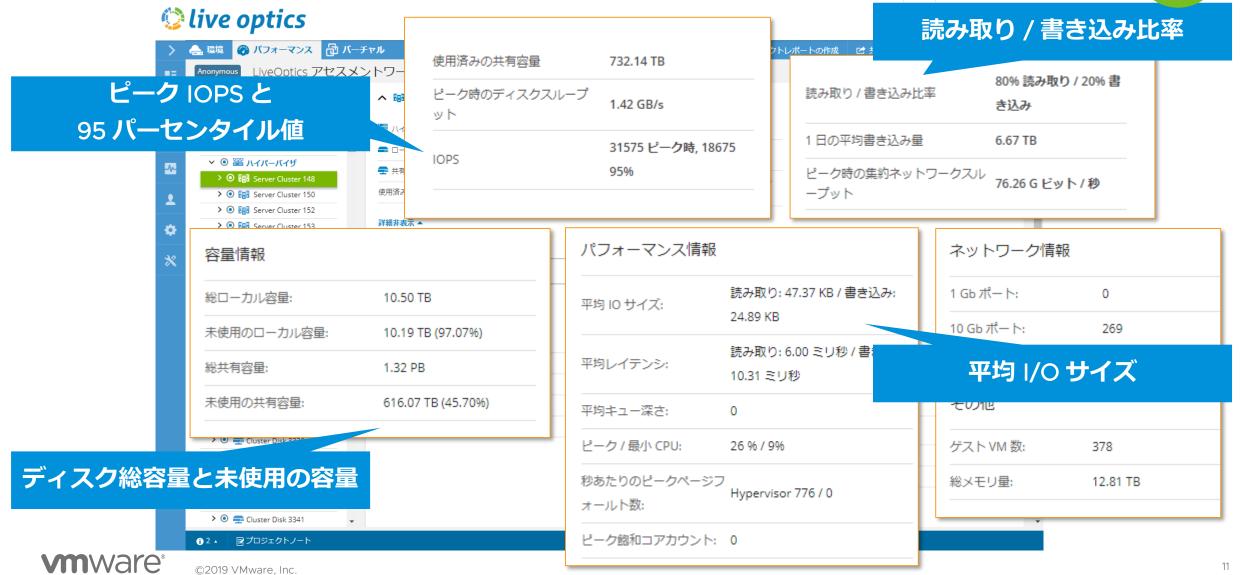
Live Optics の環境タブには、通常サイジングに利用される代表的な数値が集約して表示される



Live Optics レポートの活用ポイント - パフォーマンスタブー

より正確なサイジングのために活用すべき数値



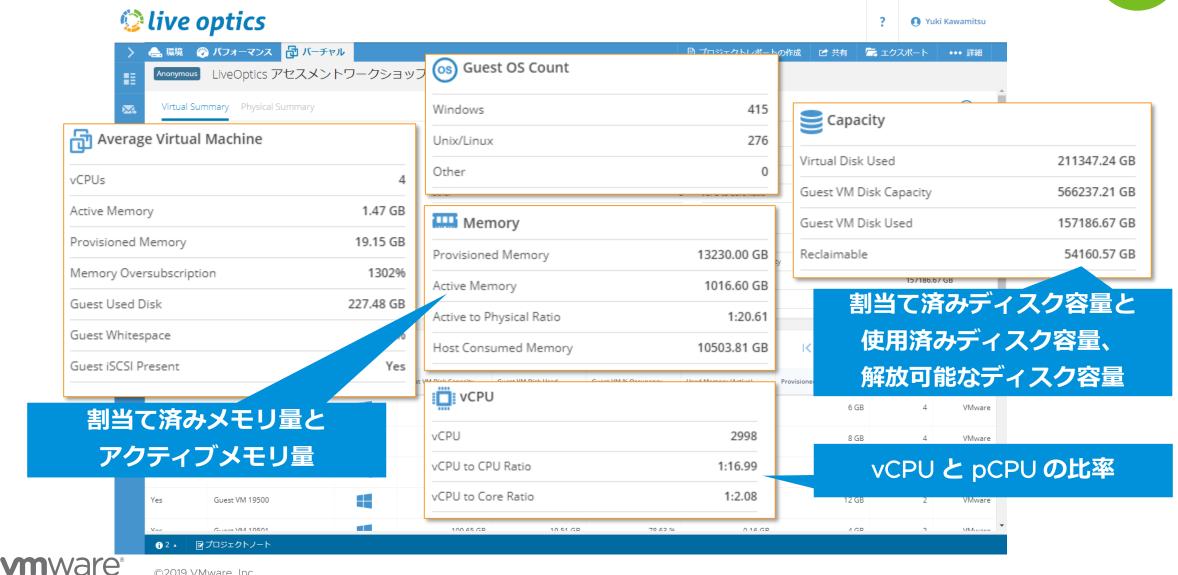


Live Optics レポートの活用ポイント -バーチャルタブー

より正確なサイジングのために活用すべき数値

©2019 VMware, Inc.





vSAN Ready Node Sizer のコツ

希望に沿った結果を得るためのカスタマイズ



vSAN Ready Node Sizer はカンタン 3 ステップ



1. Cluster Configuration

- ベースサーバのスペック定義
- CPU 猶予率定義
- vSAN 環境の定義
- サイジングリソースの定義
- データ量伸び率の定義
- N+n定義

2. Workload Profile

- ワークロードタイプの選定
- 仮想マシン台数の入力
- 必要ストレージ容量の入力
- 仮想マシンリソースの入力
- FTT 情報の入力
- 重複排除率の入力
- ワークロードの使用率の入力
- IO プロファイルの入力

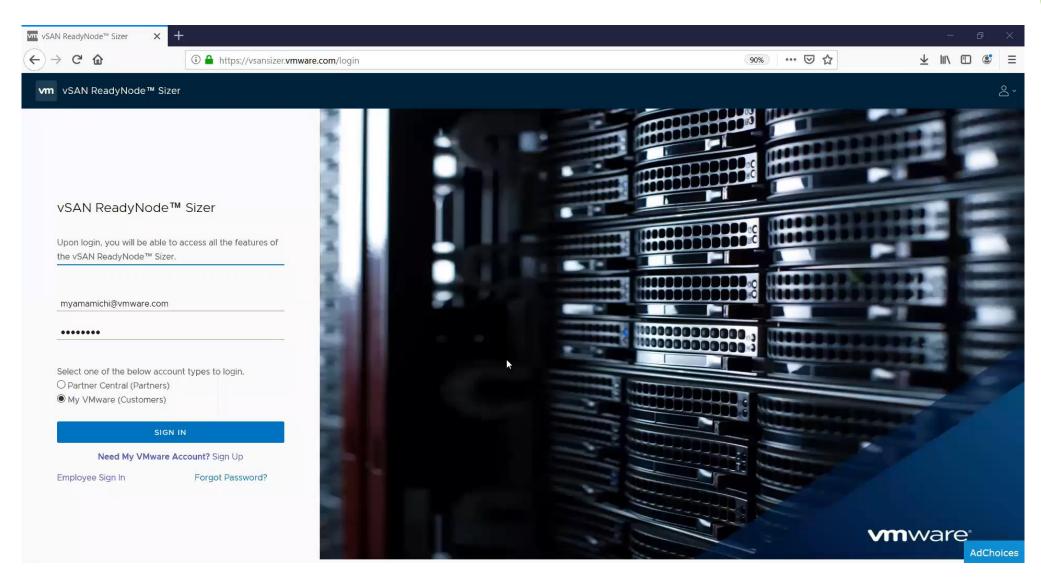
3. Recommendation

- 推奨クラスタ構成の表示
- ホスト別構成の表示
- 推奨 Ready Node の表示 (Beta)
- PDFもしくはPPTレポートの ダウンロード
- プロジェクトの作成



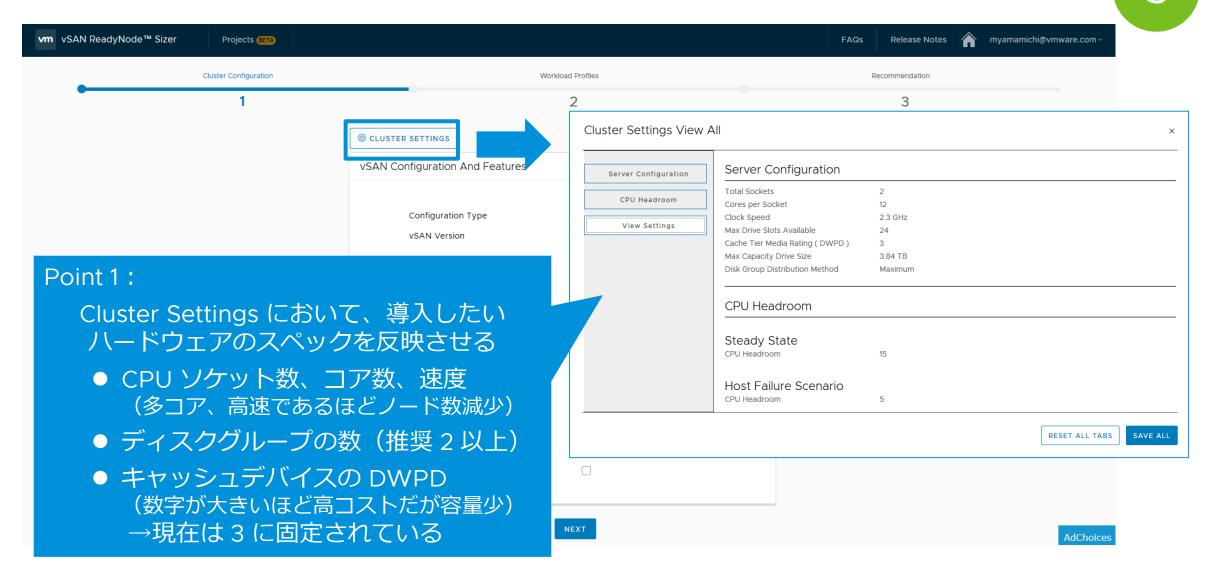
vSAN Ready Node Sizer デモ







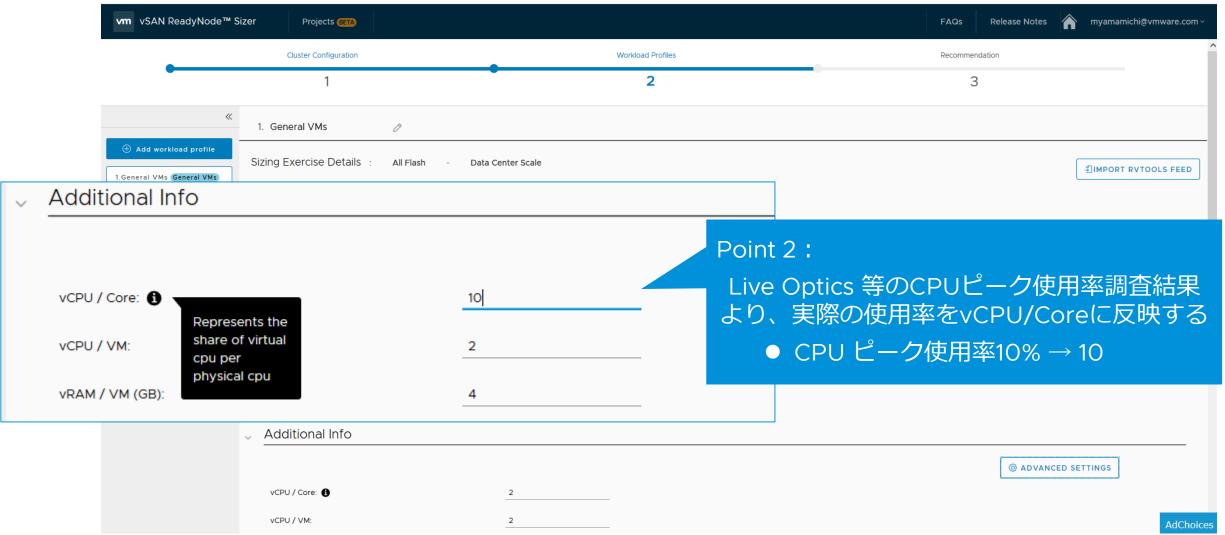
vSAN Ready Node Sizer 前提条件の変更





vSAN Ready Node Sizer 前提条件の変更





vSAN Ready Node Sizer 前提条件の変更



デフォルト値による実行結果例

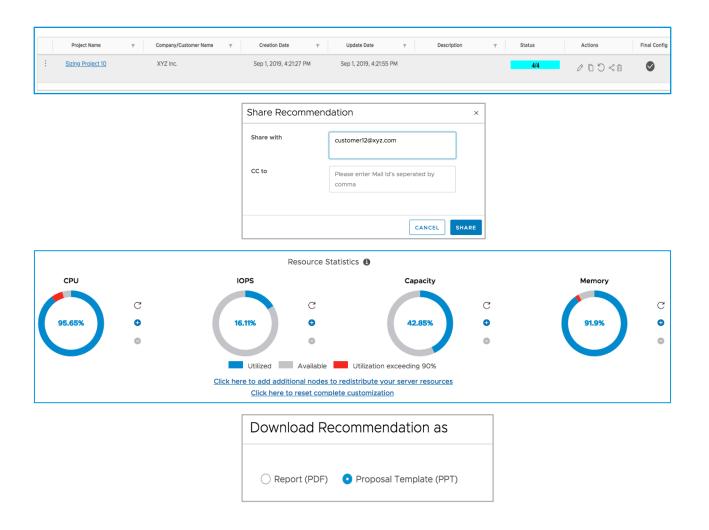
クラスタセッティングおよび vCPU/Core 設定変更後



mware[®]

vSAN Ready Node Sizer 最近のアップデート





プロジェクトの作成と管理

プロジェクトの共有

リソース使用率のカスタマイズ

PDF および PPT 形式の出力

vSAN メモリオーバーヘッドの更新

ReadyNode Recommender の アップデート



最新のサイジングルール

最新のルールを確認して準拠する



vSAN メモリサイジング

S

vSAN メモリサイジング計算式(2019.08~)

https://kb.vmware.com/s/article/2113954

①+ディスクグループ数x{⑥+⑦+キャッシュサイズx(⑨+キャパシティディスク数x⑤)}

- ① HOST_FOOTPRINT: 7100MB
- ② NumDiskGroups
- 3 DiskGroupFootprint
- 4 NumCapacityDisks
- © CAPACITY_DISK_FOOTPRINT: 160MB(AF),180MB(HYBRID)
- 6 DISKGROUP_FIXED_FOOTPRINT: 1360MB(AF),1610MB(HYBRID)
- DISKGROUP_SCALABLE_FOOTPRINT:0.5% of System memory or 0.2% of chache size (より少ない値, HYBRID のみ)
- 8 CacheSize(GB)





Best Match ReadyNode™ Profile

How do we recommend Best Match?

HY-4

Memory per Node

128 GB (Application Memory: 66.67 GB, vSAN Memory: 16.43 GB)

vSAN Ready Node Sizer 上でも確認可能

例 1: ハイブリッド、キャッシュ 600 GB、キャパシティ 3 本のディスクグループがホスト毎に 1 つ

 $7100 + (1610 + 1228 + 600 \times 10 + 3 \times 180) = 16478 MB$

例 2: オールフラッシュ、キャッシュ 600 GB、キャパシティ 3 本のディスクグループ数がホスト毎に 1つ

 $7100 + (1360 + 1310 + 600 \times 20 + 3 \times 160) = 22250 MB$



キャッシュデバイスガイドライン (vSAN 6.7~)



ハイブリッド構成:データ容量の10%を目安。

オールフラッシュ構成:ワークロードとキャッシュデバイスの DWPD により異なる。 以下ガイドラインを参照。

10 DWPD (Endurance) SSD: All Flash Caching Guidelines

Table below is total write cache for 2 Disk Groups (DG); divide by 2 to determine drive size for 1 DG

Read/Write Profile	Workload Types	AF-8 80K IOPS w/10 DWPD	AF-6 50K IOPS w/10 DWPD	AF-4 25K IOPS w/10 DWPD
70/30 Read/Write; Random	Read Intensive, Standard Workloads	800 GB	400 GB	200 GB
>30% Write; Random	Medium Writes, Mixed Workloads	1.2 TB	800 GB	400 GB
100% Write; Sequential	Heavy Writes, Sequential Workloads	1.6 TB	1.2 TB	600 GB

Assumptions

- . Caching Tier Endurance = 10 DWPD over 5 yrs.
- Fault Tolerance Method = RAID5 / RAID6
- Accounted for 30% future performance increase & impact of resync/rebuild
- While assuming max sustained throughput, IOPS decreased proportionately if block size increases
- Ready Node profile details: https://www.ymware.com/resources/compatibility/vsan.pxof

. IOPS are assuming 4KB size. Large blocks divide accordingly

3 DWPD (Endurance) SSD: All Flash Caching Guidelines

Table below is total write cache for 2 Disk Groups (DG); divide by 2 to determine drive size for 1 DG

Read/Write Profile	Workload Types	AF-8 80K IOPS w/3 DWPD	AF-6 50K IOPS w/3 DWPD	AF-4 25K IOPS w/3 DWPD	
70/30 Read/Write; Random	Read Intensive, Standard Workloads	2.4 TB	1.2 TB	600 GB	
>30% Write; Random	Medium Writes, Mixed Workloads			1.2 TB	
100% Write; Sequential	Heavy Writes, Sequential Workloads	4.8 TB	3.6 TB	1.8 TB	

Assumptions

- Caching Tier Endurance = 3 DWPD over 5 yrs.
- Fault Tolerance Method = RAID5 / RAID6
- Accounted for 30% future performance increase & impact of resync/rebuild
- While assuming max sustained throughput, IOPS decreased proportionately if block size increases
 Ready Node profile details: https://www.vmware.com/resources/compatibility/san_profile.html
- IOPS are assuming 4KB size. Large blocks divide accordingly

https://blogs.vmware.com/virtualblocks/2018/08/23/extending-all-flash-vsan-cache-tier-sizing-requirement-for-different-endurance-level-flash-device/

※1キャッシュデバイスあたり600 GB がキャッシュに利用される。剰余の容量は耐久性向上(ウェアレベリング)に利用される



これだけは知っておきたい!失敗しない vSAN 設計のポイント





✓ N+1 構成および RAID6 構成のメリット

より高い可用性



最小構成のクラスタデザイン

ストレージポリシーに準拠するための最小ホスト数と、メンテナンス/障害時の冗長性



FTT=1の最小構成では停止ノードの復旧が必要

・ ミラーリング FTT= 1:3 ノード

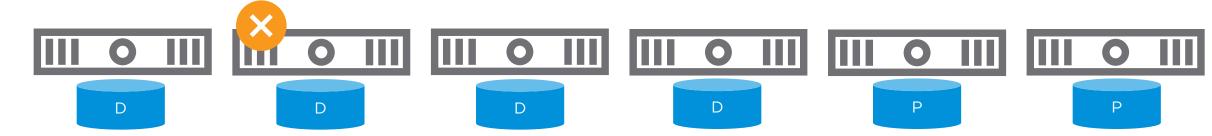


・イレージャーコーディング (RAID 5) FTT= 1:4 ノード



FTT=2は最小構成でも耐障害性を維持

・イレージャーコーディング (RAID 6) FTT= 2:6 ノード



mware

耐障害性・運用性を考慮したクラスタデザイン



FTT=1 でも N+1 構成により さらなる可用性向上が可能

許容する障害の 数(同時障害) FTT	障害の許容 方法	必要な容 量	最小ホ スト数	最小構成で 1 ノード障害時の ポリシー準拠の要件	N+1 ホスト数	N+1 構成で 1 ノード障害時の ポリシー準拠の要件
1	Mirroring	x 2	3	ノード復旧	3+1	リビルド完了※1
1	RAID5	x 1.33	4	ノード復旧	4+1	リビルド完了※1
2	RAID6	x 1.5	6	ノード復旧	6+1	無

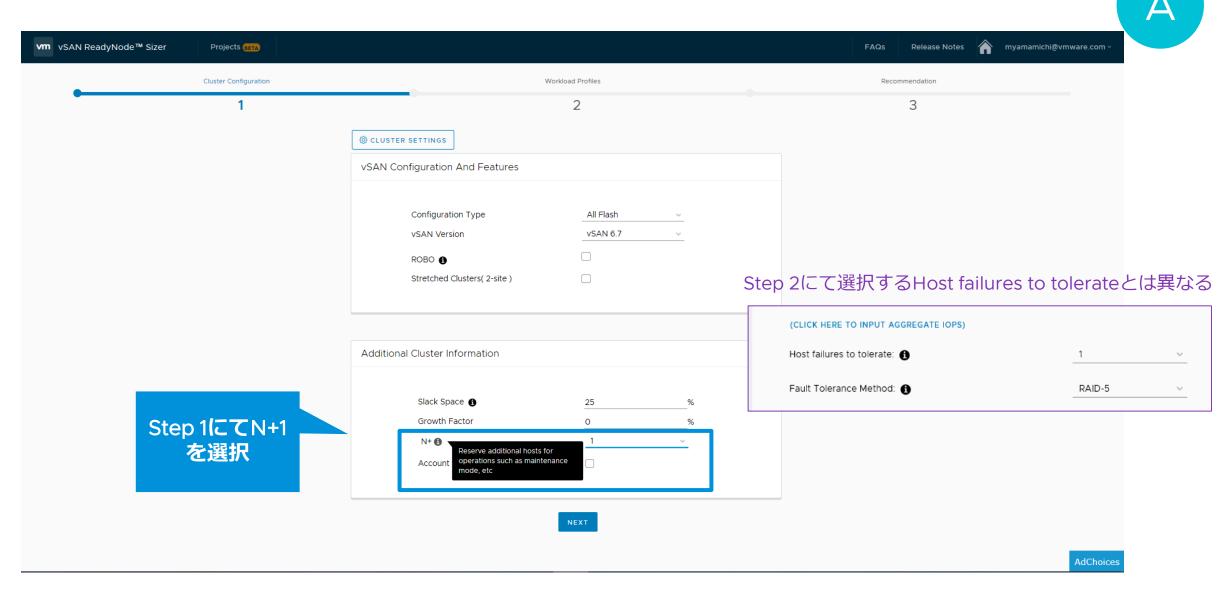
FTT=2 は 2 重障害にも 耐える

ディスク利用 効率が高い

1ノード障害時 にも追加障害 に耐える ※1 計画停止時においてはメ ンテナンスモードで全データの 移行を選択することによりポリ シーに準拠したままメンテナン スが可能



vSAN Ready Node Sizer におけるN+1構成





これだけは知っておきたい!失敗しない vSAN 設計のポイント



- ✓ キャッシュデバイス
- ✓ ディスクグループ数
 - ✓ ネットワーク
- ✓ 最新の vSAN バージョン



想定通りの パフォーマンス

P

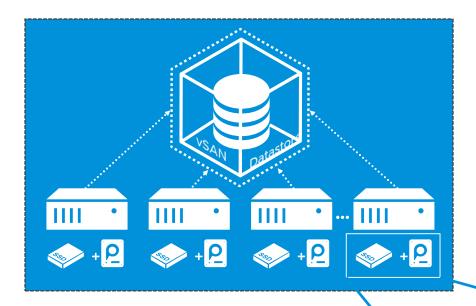
キャッシュデバイス

1/0 パフォーマンスのキーとなるデバイス



vSAN はキャッシングシステム

ハイブリッド vSAN におけるキャッシング



Hybrid vSAN

ディスクグループ

Capacity

Read Write **P P P**

30%

70%



ハイブリッド vSAN においては、リード 性能がキーとなる

- キャッシュ上にデータが存在する場合は キャッシュからリードする
- そうでない場合は、キャパシティ層の HDD からリードを行う
- HDD からのリードは大きなレイテンシを 発生させる
- リードのリクエストは複数のミラーに 対して行われ負荷分散を行う

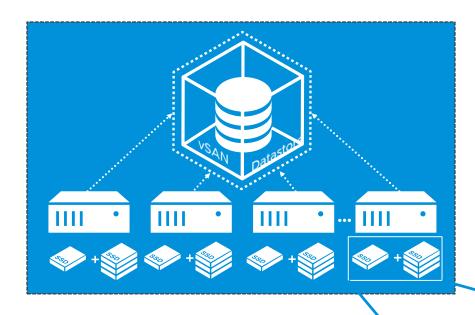
ライトキャッシュからキャパシティ層へ デステージされる



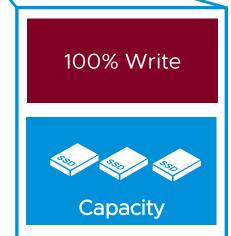
vSAN はキャッシングシステム

オールフラッシュ vSAN におけるキャッシング





All-Flash vSAN ディスクグループ



オールフラッシュ構成では、リードは キャパシティ層の フラッシュデバイスから行われる

- キャパシティ層へのデステージが 行われる前であれば、キャッシュ層 からリードされる
- キャパシティ層もフラッシュデバイスのため、大きなレイテンシは発生しない

ライトキャッシュからキャパシティ層 ヘデステージされる。

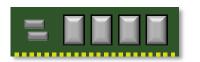
30

キャッシュの高速化による vSAN のパフォーマンス向上

NAND based Intel NVMe (~500-750K IOPS)



Memory & Storage



DDR4 based Persistent Storage Class Memory (Million+IOPS)

<u>キートレンド</u>

• DIMM 形状のパーシス テントストレージ(ス トレージクラスメモ リ) がリリースされて いる





<u>キートレンド</u>

- SAS / SATA のフラッシュデバイ スから NVMe への移行が進みつ つある
- 数 100 万 IOPS のスペックを 持つ NVMe も登場

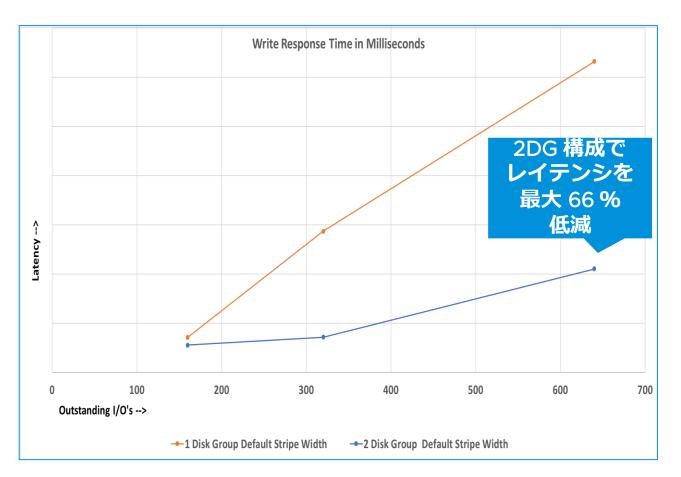
ディスクグループ数

同一ノード内での分散処理



複数のディスクグループの効果





Test Setup: 4-Node vSAN All-Flash (SATA); 2-Diskgroups; 40VMs; 2-VMDK per VM; 70R/30W; 4k random pattern; Variable OIO

VMworld 2018 session HCI1248BE - Optimizing vSAN for Performance - Hogan/O'Riordan

vmware[®]

複数ディスクグループ

- ・パフォーマンスと可用性を向上
- ディスクグループ数を増やすことでパ フォーマンスは明らかに向上する
- IOPS、スループットは増加し、レイテンシは低下する
- さらに、より安定したパフォーマンスを 発揮

P

ネットワーク

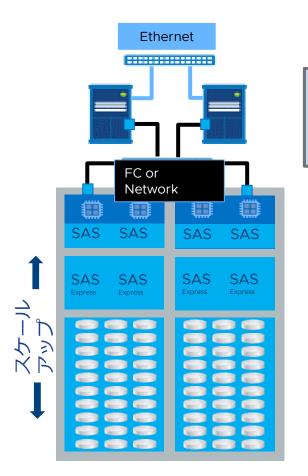
ノード間ネットワークの重要性



HCI におけるネットワークの重要性



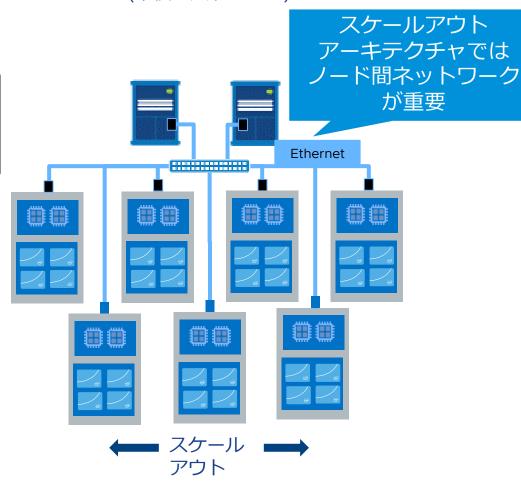
スケールアップアーキテクチャ (従来の 3Tier 構成)



HCI は CPU、メモリ、スト レージおよびネットワークを 単一のシステムで統合管理



スケールアウトアーキテクチャ (今後のストレージ)



安定性および信頼性の高い推奨ネットワーク構成

物理構成

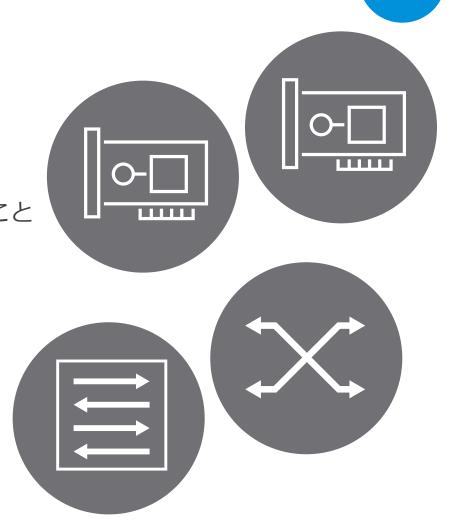
10Gb もしくは 25Gb vSAN 専用の NIC (all-flash)

NIC の考慮点

- ネットワークプロセッサーが複数のポートで共有されていないこと
- HCL の条件を満たすファームウェアおよびドライバの使用

ネットワークスイッチのバッファの考慮点

- ・ポートバッファのサイズ
- ポートバッファが複数のポートで共有されていないこと



安定性および信頼性の高い推奨ネットワーク構成



論理構成

ネットワーク負荷分散

• LACP / EtherChannel の構成

ジャンボフレーム (MTU 9000) の利用

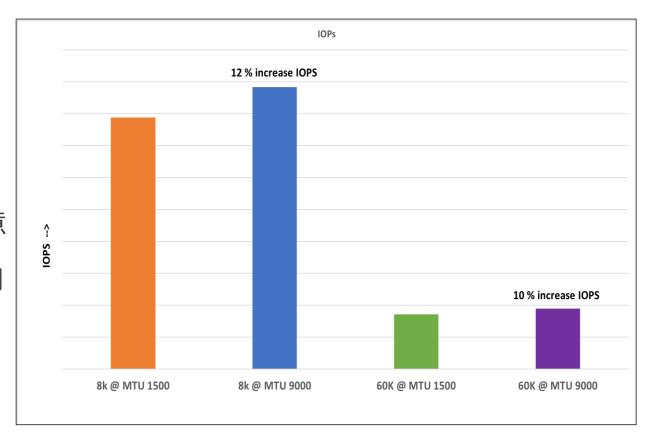
• 2 % から 15 % 程度のパフォーマンス向上

可能な限り vSAN 専用のアップリンクを用意

アップリンクを共有する場合は NIOC を利用

ネットワーク使用率のターゲット

- ・単一のアップリンクでは、80%
- ・複数アップリンクのチームでは、60%

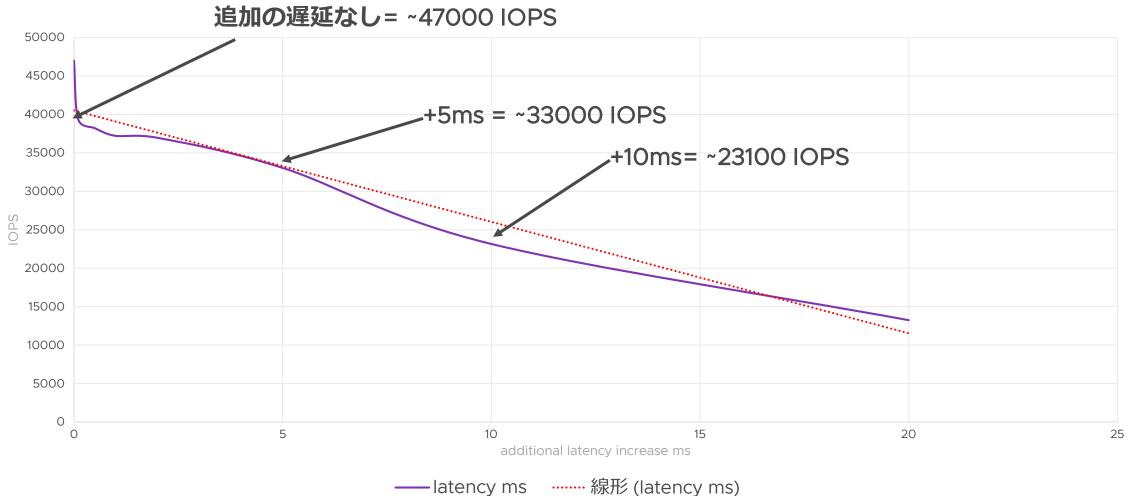


VMworld 2019 session HCl1836BU – vSAN Networking Design and Configuration Decisions – Andreas Scherr/ Cedric Rajendran



ネットワークレイテンシの影響



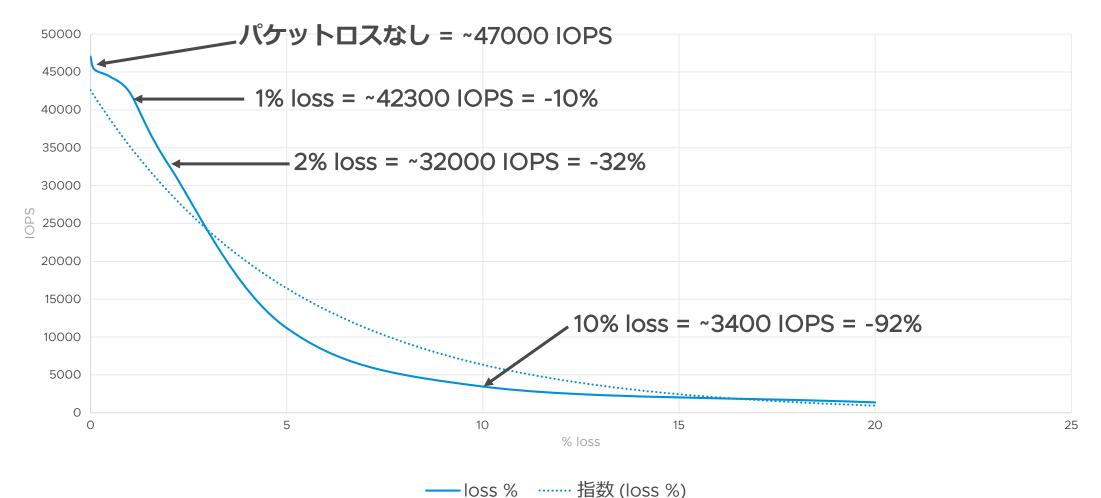


VMworld 2019 session HCl1836BU – vSAN Networking Design and Configuration Decisions – Andreas Scherr/ Cedric Rajendran



パケットロスの影響





VMworld 2019 session HCl1836BU – vSAN Networking Design and Configuration Decisions – Andreas Scherr/ Cedric Rajendran

P

最新の vSAN バージョン

パフォーマンス向上のメリットも



vSAN 6.7 Update 3 におけるパフォーマンスの改善点



ワークロード 「APP」

キャッシュからのデステージの 最適化により、再同期時間を 短縮

シーケンシャル I/O の性能改善

ストレージのレイテンシに関する要求が高いアプリケーションへの対応

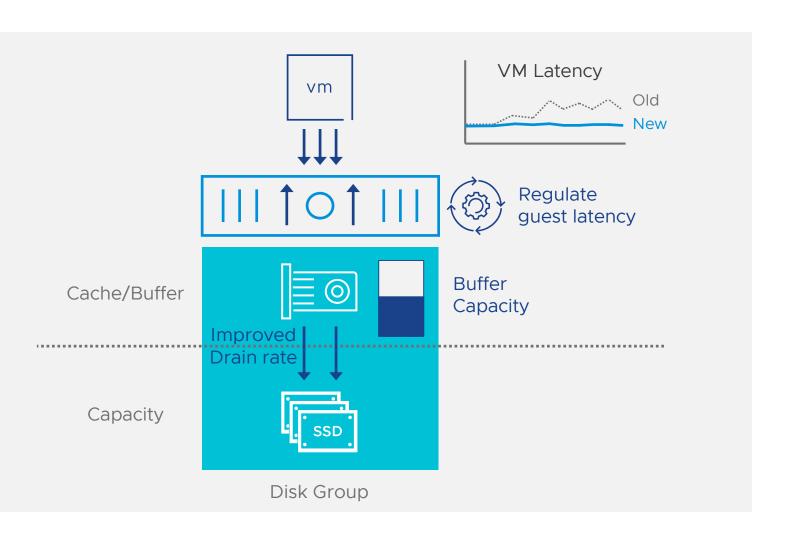
項目	目的	改善点	
より安定した パフォーマン ス	ライトのレイテンシを低減する	I/O フローコントロールを 改善し、より安定したライ トのレイテンシを実現	
スループット の向上	特にオールフラッシュ構成で重 複排除を有効化している場合の シーケンシャルライト性能を改 善する	キャッシュからデステージ 中のプロアクティブな I/O バッファ処理を改善重複排除処理の並列化	
効率的な 再同期	特にオールフラッシュ構成で重 複排除を有効化している場合の 再同期時間を短縮する	• 再同期処理の並列化	



より予測可能なアプリケーションパフォーマンス

重複排除 / 圧縮利用時において安定したパフォーマンスへ最適化





シーケンシャルな書き込みの **スループットを増加**

- 仮想マシンのスループットを 向上
- 再同期時間の削減

遅延に厳しいアプリケーション における**安定性の向上**

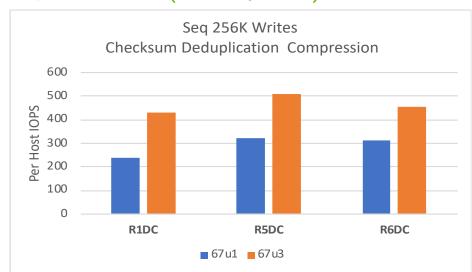
- ・ 書き込み過多が継続する場合 の遅延を一定化
- 高遅延と低遅延の偏りを低減

42

VSAN 6.7U3 における重複排除・圧縮使用時の性能改善

シーケンシャルライト (256K / 16K)



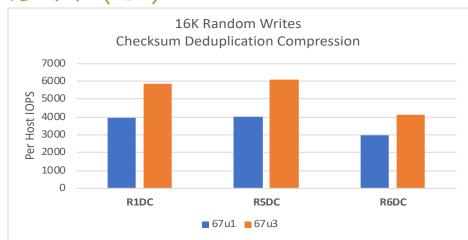


期待される効果:

ストリーミングのアプリケーションにおけるライト性能改善

再同期およびリビルド時間の短縮

ランダムライト (16k)



期待される効果:

株式取引等の OLTP / SQL の アプリケーションのライト性能改善

Note: IOPS quoted are per host IOPS for large WSS (~50%-60% of cluster capacity)

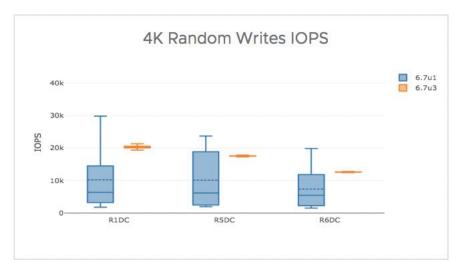
VMworld 2019 session HCI1175BU – vSAN Technical Deep Dive- Rakesh Radhakrishnan/ Mansi Shah

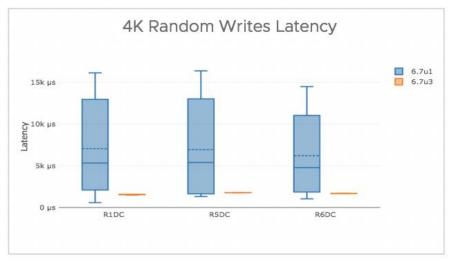


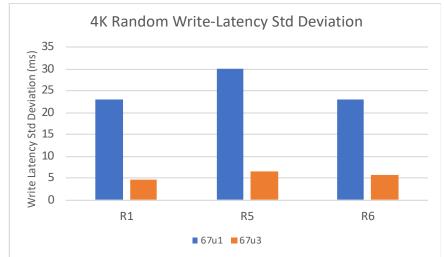
vSAN 6.7U3 における重複排除・圧縮使用時の性能改善

4K ランダムライト性能









アルゴリズムの改善によりレイテンシを大幅 に低減し、より安定した高い IOPS を実現

ライトの多いワークロードにおいてより大き な改善効果が得られる

VMworld 2019 session HCl1175BU – vSAN Technical Deep Dive– Rakesh Radhakrishnan/ Mansi Shah



これだけは知っておきたい!失敗しない vSAN 設計のポイント



✓ 効果的な製品選定

✓ 最新の vSAN バージョン

Ease of Mgmt

実現すべき運用効率化





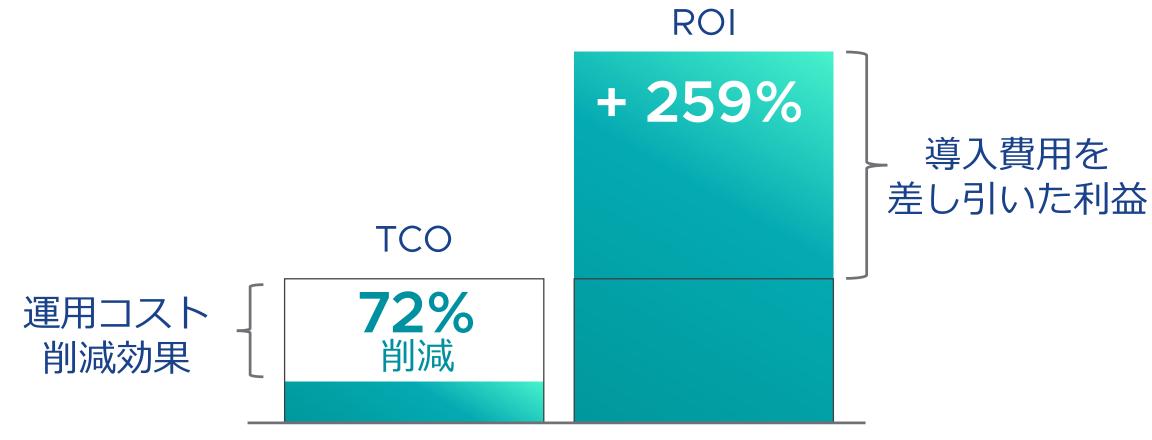
効果的な製品選定

アプライアンス製品と vSAN Ready Node



VMware vSAN の経済的効果





Source: Forrester TEI Study, August 2019



VMware vSAN の幅広い提供形態

HCI アプライアンス



D¢LLEMC

VxRAIL

FUJITSU

PRIMEFLEX for VMware vSAN

Lenovo.

ThinkAgile VX

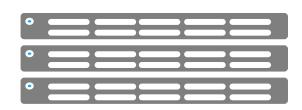
vSAN Ready Node



Sugon

SUPERMICE

DIY (Build Your Own)

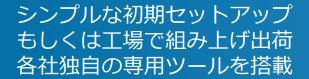








inkagile V



ハイブリッド、オールフラッシュ共に、 各 HW ベンダーの組み上げテスト済み構成 HW ベンダー毎に vSAN システム一式として提供 アプライアンス型に比べ、幅広い HW メーカーから 200 種類以上の選択肢を提供 競争力のある HW 調達を実現

vSAN HCL に記載されている デバイスから任意のものを選択



運用効率化の観点による製品選定



	HCI アプライアンス	vSAN Ready Node	DIY (Build Your Own)
導入にかかる工数	©	\bigcirc	\triangle
構成の柔軟性	\triangle	\bigcirc	©
保守性	©	0	\triangle
独自の運用支援 SW の提供	©	O (ベンダーによる)	×
統合保守窓口	©	O (ベンダーによる)	×
リモートアップデートサービス	O (ベンダーによる)	×	×
システムの拡張性	\triangle	0	©

HCI アプライアンスもしくは、運用支援 SW のある vSAN Ready Node

運用および保守に習熟しているベンダーの vSAN Ready Node





最新の vSAN バージョン

更なる運用効率化を実現する数多くの改善点



vSAN 6.7 Update 3 の新機能および機能強化

運用の効率化に貢献する多数の機能の追加・強化

E

- vSAN のパフォーマンスの向上
- 容量監視の強化
- 再同期監視の強化
- メンテナンス モードで操作している場合のデータ 移行の事前チェック
- 容量管理が厳しいシナリオでのセキュリティの 強化
- プロアクティブなリバランスの強化
- ポリシーが変更された場合の容量処理の効率化
- ディスク フォーマット変換の事前チェック
- パラレル再同期

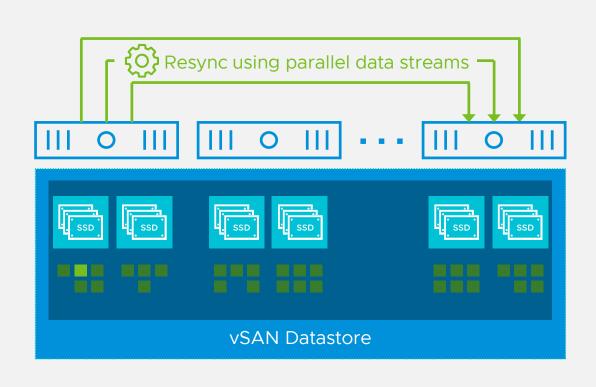
- ネイティブ vSAN VMDK 上の Windows Server Failover Clusters (WSFC)
- vSphere Client での Support Insight の有効化
- VMware vSphere® Update Manager Client™ (VUM) ベースラインの設定
- vSAN データストアからの VMDK のアップロー ドおよびダウンロード
- VMware vCenter Server® と VMware ESXi™ の 上位互換性
- 新しいパフォーマンス メトリックおよびトラブル シューティング ユーティリティ
- vSAN iSCSI サービスの機能強化
- クラウド ネイティブ ストレージ



インテリジェントな 1/0 管理によりパフォーマンスを改善

動的なパラレル再同期により修復や再構築時間の短縮





環境の状況に応じて再同期タスクを調整

1コンポーネントの再同期つき数十の並列処理

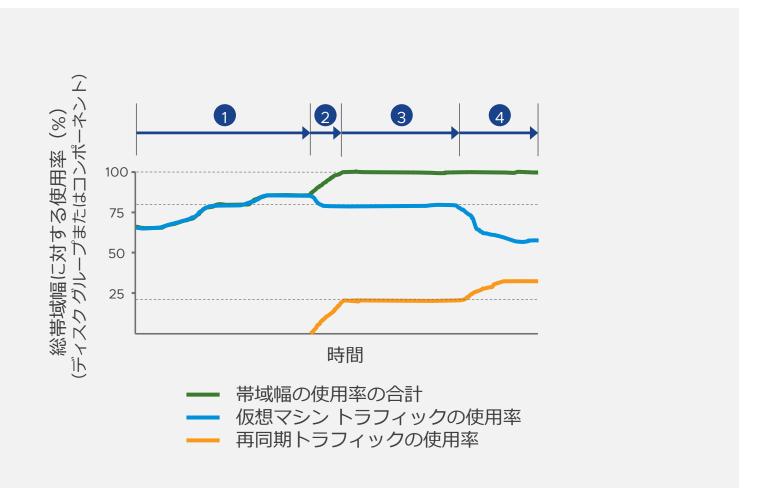
動的な再同期によりコントロー ルされる**帯域リソース**



再同期の I/O 管理(vSAN 6.7より)

vSAN 6.7 の適応型の再同期機能がリソースの全体的な使用を最適化





- 1. 仮想マシンの I/O が **全リソース**を使用可能
- 再同期処理が開始。合計
 100%に近づくと、再同期
 処理に対応するために仮想
 マシンのI/Oが減少
- 3. 完全な競合状態になり I/O タイプごとに帯域を分配
- 4. 仮想マシンの I/O 処理が 減少したため、**再同期処理**を **増加**



53

まとめ

着目すべき 4 つのポイント



適切な サイジング

- ✓ 移行対象のアセスメント
- ✓ vSAN Ready Node Sizer のコツ
- ✓ 最新のサイジングルール



より高い可用性

✓ N+1 構成および RAID6 構成のメリット



想定通りの パフォーマンス

- ✓ キャッシュデバイス
- ✓ ディスクグループ数
- ✓ ネットワーク
- ✓ 最新の vSAN バージョン

Ease of Mgmt

実現すべき運用効率化

- ✓ 効果的な製品選定
- ✓ 最新の vSAN バージョン



54

Thank You

